

おおい町 シェッド長寿命化修繕計画
(鹿野ロックシェッド)

令和6年12月

おおい町建設課

1. おおい町の概要

おおい町は、福井県南西部に位置し、平成 18 年 3 月 3 日に大飯町と名田庄村が合併し誕生した町になります。

西は大飯郡高浜町、京都府綾部市、南は南丹市、東は小浜市、滋賀県高島市に接しています。海岸部は、リアス式海岸を成し、大島半島には大飯原子力発電所があります。

主要な交通機関は、JR 小浜線、主要道路として、緊急輸送道路である国道 27 号、国道 162 号、主要地方道小浜綾部線（県道 1 号）があります。

また、高規格道路としては、舞鶴若狭自動車道が開通し、北陸自動車道へアクセスしています。おおい町では、過年度より道路施設の維持管理について、損傷が顕在化してから補修工事を実施する事後保全的修繕から、損傷が軽微なうちに計画的に対策を講じる予防的修繕への転換を図るための取り組みを行っています。



図－1 位置図

- ・面積 212 k m²
- ・人口 8,292 人（平成 31 年 1 月 1 日現在）
- ・緊急輸送道路
 - 第 1 次緊急輸送道路 → 国道 27 号、国道 162 号
 - 第 2 次緊急輸送道路 → 主要地方道小浜綾部線（県道 1 号）
- ・主な河川
 - 一級河川 → 無
 - 二級河川 → 南川、佐分利川、大津呂川

2. 道路施設の現状と課題

おおい町が管理するシェッドは1施設のみとなっており、2024年時点では建設後43年が経過しています。また、シェッドに構造が近い橋梁では、橋長2m以上で331橋あり、現在建設後50年を経過する高齢化は12%(39橋)にとどまっています。しかしながら、10年後には29%(97橋)、20年後には69%(227橋)となり、橋梁の高齢化が急速に進むこととなります。このような急速な高齢化は橋梁だけではなく、トンネルといった他の道路施設においても同様に進んでおり、老朽化が急速に進行しています。

このような背景により、従来の事後保全的な維持管理では、今後、道路施設の修繕に要する費用が増大し、集中することが予想されます。したがって、道路施設の計画的かつ効率的な維持管理が課題となっています。

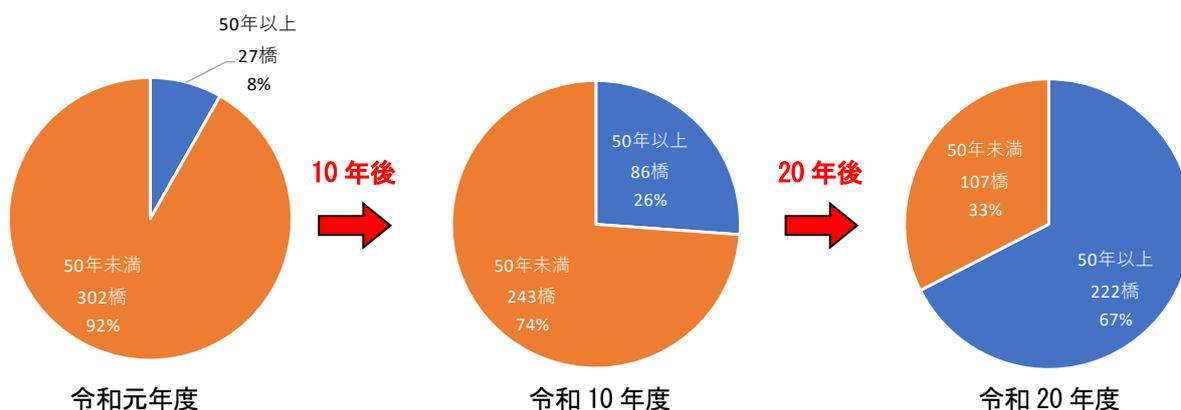


図-2 今後の供用年数の推移(橋梁)

3. シェッド長寿命化修繕計画策定の目的

「おおい町公共施設等総合管理計画」に基づき、従来の事後保全的管理から予防保全的管理への転換を行い、道路ネットワークの安全性・信頼性を確保するとともに、定期点検で得られた健全性に関する基礎データを収集・把握し、予防的修繕などを計画的に行うことを目的とし計画を策定します。

4. 対象シェッド

対象シェッドは、鹿野ロックシェッド(おおい町鹿野地係)とします。

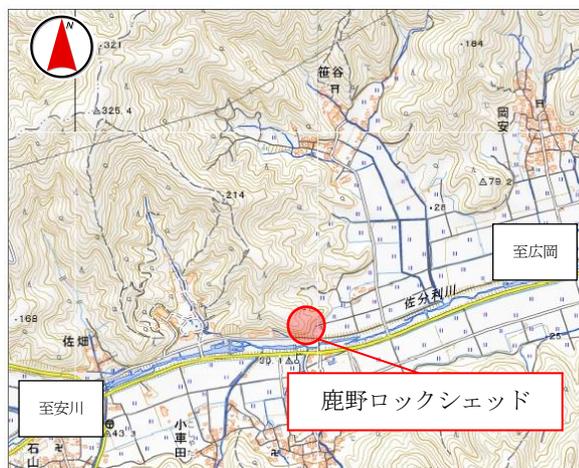


図-3 シェッド位置図

5. 計画期間

計画期間は、5年に1度実施する定期点検サイクルを踏まえ、点検間隔が明らかになるよう10年間(令和元年度～令和10年度)とします。なお、計画については定期点検等の結果を踏まえ、適宜見直して更新します。

シェッドの定期点検は、「シェッド、大型カルバート等定期点検要領 国土交通省 道路局」に基づき実施します。シェッドの健全性は、以下の4段階の判定区分により把握します。

表－1 判定区分

区分		状態
I	健全	シェッドの機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	シェッドの機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	シェッドの機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	シェッドの機能に支障が生じている、または生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

今後も定期点検を継続して実施することで、利用者の安全な通行を確保するとともに、点検により損傷等が明らかになった場合は、早期に対策を実施します。

6. 新技術の活用方針及び施設の集約化・撤去に関する方針

○活用方針

定期点検について、本町においては新技術の活用が有効となるシェッドがないため、コスト削減や品質確保、工期短縮の可能性を検討した結果、現時点では新技術の導入は行わないが、引き続きコスト削減を目指して新技術の有効活用を検討します。

修繕工事については、設計段階から新技術の活用を含めた比較検討を行い、コスト削減や再劣化の抑制を図れる有効な新技術を活用します。

○短期的な数値目標及びそのコスト削減効果

修繕工事については、令和9年度までに管理施設1施設で新技術を活用し、約20万円のコスト削減を目指します。

○集約化・撤去に関する方針

本施設はおおい町に1箇所のみであり、町の観光施設と集落を結ぶ路線にあるため施設の集約化や撤去することはできないと考えており、今後においても同様であると認識しています。

7. シェッドの状態

令和5年度に行った定期点検の結果から、シェッドの健全性は、以下の通りです。

表-2 シェッドの健全性

施設名	健全性	点検年度	変状	
			ひび割れ	漏水
鹿野ロックシェッド	Ⅱ	令和5年度	Ⅱ	Ⅱ

定期点検の結果から、鹿野ロックシェッドは、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい「健全性Ⅱ」の変状(ひび割れ及び漏水)が確認されています。

シェッド修繕リスト

R6.12.27 現在

	施設名	路線名	架設年度 (西暦)	延長 (m)	幅員 (m)	1巡目 点検実施 年度	1巡目点 検判定区 分	2巡目 点検実施 年度	2巡目点 検判定区 分	次回 点検実施 年度	対策内容	対策		全体事業費 (千円)	事業分類
												着手年度	完了年度		
1	鹿野ロックシェッド	石山万願寺線	1981	30.0	3.0	H30年度	II	R5年度	II	R10年度	ひび割れ注入 塗膜防水	R9年度	R9年度	1,000	修繕
合計													1,000		